

降雪時の避難経路の確保

- ▶ 北海道は地域防災計画に基づき毎年度、北海道防災会議に「北海道雪害対策連絡部」を設置し、関係機関とともに路線の重要性等を考慮してあらかじめ除雪路線を設定し、緊急時についても適切に除雪を実施。
- ▶ 直轄国道及び高速道路については、国土交通省北海道開発局及び高速道路会社（NEXCO）が、除雪体制の強化を図り各関係機関の緊密な連携の下、各機関の除雪計画に基づき、適切な除雪、凍結防止等の対策を行い、冬期間の交通の確保等に努める。



暴風雪時における対応

- ▶ 暴風雪時(暴風雪警報または暴風雪特別警報の発表時)における避難行動では、車の立往生や交通事故等の二次災害を回避する必要があるため、天候が回復するまで屋内退避を優先し、天候回復後の速やかな避難に備えた準備を実施。

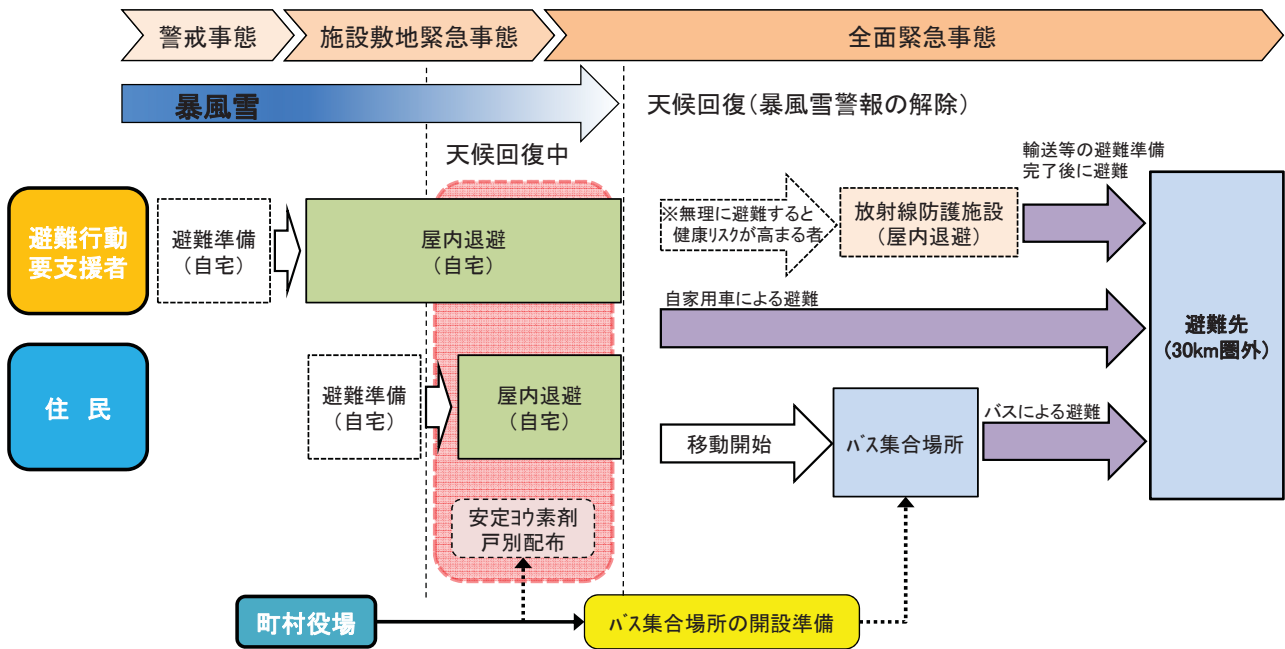
<各緊急事態の区分における暴風雪時の対応策>

緊急事態の区分	対象住民の区分	対応策
警戒事態	PAZ圏内避難行動要支援者	・避難準備を実施
施設敷地緊急事態	PAZ圏内避難行動要支援者	・避難準備を実施し、屋内退避を優先
	PAZ圏内住民	・避難準備を実施
全面緊急事態	PAZ圏内避難行動要支援者	・避難準備を実施し、屋内退避を優先 ・指示に基づく、安定ヨウ素剤の服用
	PAZ圏内住民	・避難準備を実施し、屋内退避を優先 ・指示に基づく、安定ヨウ素剤の服用
	UPZ圏内避難行動要支援者 UPZ圏内住民	・屋内退避を実施

暴風雪時におけるPAZ圏内の防護措置

- PAZ圏内の避難行動要支援者及び住民は、天候が回復するまで屋内退避を優先し、天候回復後は道路状況、プラントの状況等を確認後、避難を実施。なお、無理に避難すると健康リスクが高まる者は、近傍の放射線防護施設へ屋内退避を実施。

＜全面緊急事態で天候が回復した場合＞



※町村の職員は、天候の状況、プラントの状況等を踏まえて対応を実施

PAZ圏内における暴風雪時の安定ヨ素剤の配布体制

- 避難の際に安定ヨ素剤の緊急配布を行う共和町では、暴風雪のため避難行動の開始が遅れるような事態となった場合には、施設敷地緊急事態等の早い段階で、PAZ圏内において、町職員等40人が2人1組となり、安定ヨ素剤の戸別配布を実施し、住民の予防服用体制を確保。
- 暴風雪時に全面緊急事態に至った場合、住民は町村の指示に従い安定ヨ素剤を服用。

＜共和町における緊急配布のエリア分け＞



緊急配布地区	配布対象世帯及び人数	緊急配布地区	配布対象世帯及び人数
みやおか 宮丘地区①	18世帯41人	ほったり 発足リヤムナイ地区	22世帯63人
みやおか 宮丘地区②	25世帯72人	しもりやむない 下梨野舞納地区①	21世帯45人
みやおか 宮丘地区③	15世帯45人	しもりやむない 下梨野舞納地区②	21世帯60人
みやおか 宮丘地区④	14世帯23人	しもりやむない 下梨野舞納地区③	23世帯57人
かしわぎ 柏木地区	30世帯51人	あだち 安達地区①	16世帯63人
ヤチナイ地区①	29世帯69人	あだち 安達地区②	18世帯44人
ヤチナイ地区②	25世帯96人	まつざと 松里地区①	22世帯45人
リヤムナイ中央地区①	29世帯64人	まつざと 松里地区②	18世帯35人
リヤムナイ中央地区②	23世帯47人	北電社宅地区①～④	193世帯288人

※ 数字は現段階で共和町が把握している暫定値

※ 緊急配布では、必要に応じて町村職員が衛星携帯電話等により、保健所等の医師に確認を実施。

※ 泊村においても事前配布を受けていないPAZ圏内の住民に対し、村職員20人が2人1組となり戸別配布を実施。

5. PAZ圏内の全面緊急事態における対応

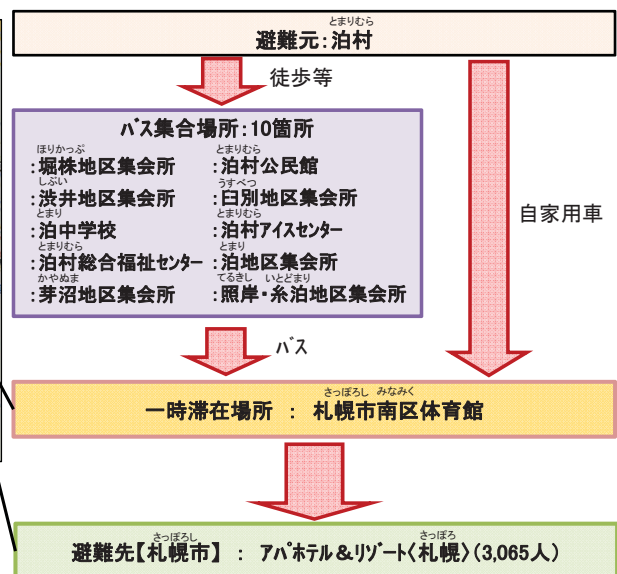
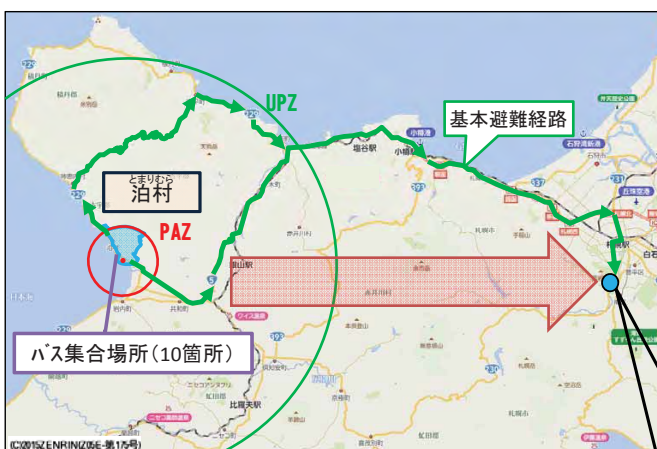
＜対応のポイント＞

1. バス避難に必要となる輸送能力を確保し、避難を開始すること。
2. 避難先の受入れ体制を整えること。
3. 安定剤を配布していない者等に、緊急配布すること。

41

泊村におけるPAZ圏内の住民の避難先及び避難住民数

- 泊村におけるPAZ圏内の住民については、自家用車で避難する住民は、自家用車により札幌市の一時滞在場所（札幌市南区体育館）を経由し、避難先（アパホテル&リゾート〈札幌〉）に避難。
- バスにより避難する住民は、徒歩等で各バス集合場所に集合し、バスで一時滞在場所を経由し、避難先に避難。



PAZ圏内 地域	避難 対象者	バス避難者数	自家用車 避難者数
とまりむら 泊村	1,136人	473人	663人

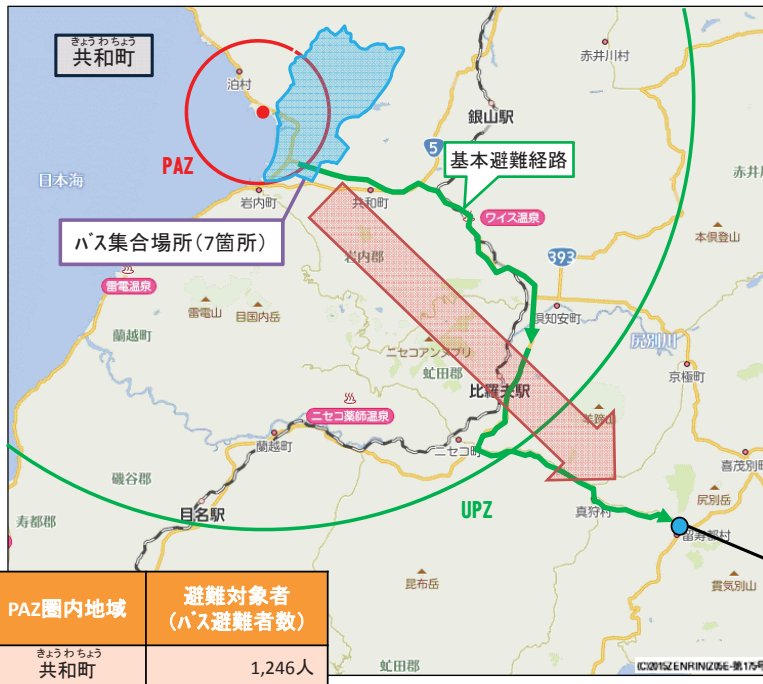
()は収容可能人数

※1 避難先については、啓発資料を全戸配布するとともに、訓練を通じて住民に周知

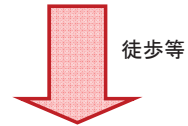
※2 避難対象者数は、PAZ圏内住民の合計数から施設敷地緊急事態で避難する住民を引いた数字であり、若干の増減がある

42

- 共和町におけるPAZ圏内の住民については、徒歩等で各バス集合場所に集合し、バスにより留寿都村の避難先(ルスツリゾート)に避難。

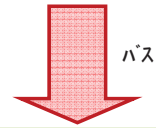


避難元: 共和町



バス集合場所: 7箇所

- 宮丘地区寿の家
- 北辰小学校
- ビシャムナイ会館
- 発足地区寿の家
- 発足克雪管理センター
- 北電体育館
- 発足コミュニティセンター



避難先(兼一時滞在場所)【留寿都村】
: ルスツリゾート(4,488人)

()は収容可能人数

※1 避難先については、啓発資料を全戸配布するとともに、訓練を通じて住民に周知
 ※2 避難対象者数は、PAZ圏内住民の合計数から施設敷地緊急事態で避難する住民を引いた数字であり、若干の増減がある

- 泊村において全面緊急事態で必要となる輸送能力は、約470人分:バス17台であり、北海道は「原子力災害時における住民避難用バス要請・運行要領」に基づき、北海道バス協会に住民避難用バスを要請。
- 北海道バス協会は、同要領に基づく北海道からの要請を踏まえ、住民避難用バスを調整・確保するとともに、更に余裕を持った台数を確保。

泊村において全面緊急事態で必要となる輸送能力

	想定対象人数※	必要車両台数	備考
バスにより避難する住民	473人	17台	バス集合場所にて乗車 1台あたり40人の乗車を想定 【資料P46】

※ 数字は現段階で泊村が把握している暫定値

泊村における全面緊急事態での輸送能力の確保

		確保車両台数	備考
		バス	
(A)	必要車両台数	17台	
(B)	確保車両台数	計17台以上	
確保先	北海道バス協会	17台以上	PAZ・UPZ町村が所在する後志地域のバス会社が保有する車両総数1,252台

※ 不測の事態により確保した輸送能力に対応できない場合、実動組織(警察、消防、海保庁、自衛隊)に支援を要請

- 共和町において全面緊急事態で必要となる輸送能力は、約1,240人分：バス34台であり、北海道は「原子力災害時における住民避難用バス要請・運行要領」に基づき、北海道バス協会に住民避難用バスを要請。
- 北海道バス協会は、同要領に基づく北海道からの要請を踏まえ、住民避難用バスを調整・確保するとともに、更に余裕を持った台数を確保。

共和町において全面緊急事態で必要となる輸送能力>

	想定対象人数※	必要車両台数	備考
全面緊急事態で避難する住民	1,246人	34台	バス集合場所にて乗車 1台あたり40人の乗車を想定 【資料P47】

※ 数字は現段階で共和町が把握している暫定値

共和町における全面緊急事態での輸送能力の確保>

		確保車両台数	備考
		バス	
(A)必要車両台数		34台	
(B)確保車両台数		計34台以上	
確保先	北海道バス協会	34台以上	PAZ・UPZ町村が所在する後志地域のバス会社が保有する車両総数1,252台

※ 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、実動組織(警察、消防、海保庁、自衛隊)に支援を要請

- 泊村による全戸訪問調査の結果、PAZ圏内のバスにより避難する住民は合計約470人。
- 泊村では、10箇所のバス集合場所を設置し、バスにより避難する住民は、あらかじめ指定されたバス集合場所に集合。



バス集合場所		バス必要台数
ほりかつぶ 堀株地区集会所	60人	2台
しおい 洗井地区集会所	9人	1台
とまり 泊中学校	41人	2台
とまりむら 泊村総合福祉センター	59人	2台
かやめま 茅沼地区集会所	60人	2台
とまりむら 泊村公民館	50人	2台
うすべつ 臼別地区集会所	31人	1台
とまりむら 泊村アイセンター	16人	1台
とまり 泊地区集会所	39人	1台
とまりむら 照岸・糸泊地区集会所	108人	3台
合計:10箇所	473人	17台

※ 数字は現段階で泊村が把握している暫定値

共和町におけるPAZ避難の住民の数

- 共和町におけるPAZ圏内のバス避難の住民数は合計約1,240人。
- 共和町では、7箇所のバス集合場所を設置し、住民は、あらかじめ指定されたバス集合場所に集合。



バス集合場所		バス必要台数
みやおか 宮丘地区寿の家	75人	2台
ほくしん 北辰小学校	21人	1台
ビンヤムナイ会館	61人	2台
はったり 発足コミュニティセンター	143人	4台
はまなす幼児センター	290人	8台
はったり 発足克雪管理センター	151人	4台
北電体育館	505人	13台
合計:7箇所	1,246人	34台

※ 数字は现阶段で共和町が把握している暫定値

泊村におけるPAZ圏内から一時滞在所までの主な経路

- 自然災害等により避難経路が使用できない場合を想定して、基本避難経路及びその他避難経路を設定。

